

【Artist Statement】

1.雨となって降り注いだ水の雫が、やがて川となり、大海に注いで世界へと広がっていく・・・

そうした一粒の雫となることを期待して、私は作品を描きます。

人々に記憶され、新しく上書きされる記録。

私はいま「記憶される記録」というテーマをもとに作品を制作しています。

太古の昔より人間は、生きとし生けるものとしての魂を込めて、ものづくりに没頭してきました。

そんな野生的な感情を表現するにあたり、私は、既存の画材にとどまらず、コールドターク、石膏、珪藻土、煤、漆喰、顔料、蜜蝋、アクリル、ペンキ、ボンド、モデリングペースト、ニス、ストリングジェルといった、様々な素材を使った制作に取り組んでいます。

太古の昔、人間たちが洞窟のなかで、祈りや願いを込めて壁画を描いたように、太陽と月の光の中で、昼も夜も外の風や光音を感じながら制作に没頭してきました。

人間の理性を超越した何かを表現したいという思いから、水の勢いや繊細さ、偶然性を活かしながら、その時間と空間を再構築して作品を生み出しています。

インターネット、デジタルデバイス、現代の知識や常識、世界情勢・・・

そうした様々な情報を感じ、自分というフィルターを通して絵画に反映させるのが、私が今手がけている「記憶される記録」シリーズです。

現代を生きる私たちが忘れてしまった何か。

そうした記憶にはあやふやであるけれども、人間の根源を問い、精神に訴えかける何かを私は創造したいと考えています。

世界へと広がるアートの大海に繋がる、一粒の水の雫。

2.筆がはしるままに

私は感情、感覚で絵を描きます。

私は技巧がなくてよかったと思っています。

技巧を持っていないからこそ、高揚する感情のままに筆を走らせ色をたたきつける、

見るものを再現するのではなく自己の心情を表現することが描くこと、そんな気持で制作しています。

「アートに正解はない。」とはよく聞かれる言葉ですが、私自信は、「アートにこそ正解はある。」という信念をもってキャンバスに向かっています。展示するすべての絵は、私自信が「これが正解だ。」とジャッジした作品たちです。そして、みなさまが見て触ってジャッジを下されることで作品が完成し、かけがえのない時間と空間が生まれることを確信しています。

鳥越一輝